

地域の主要産業となる林業の再興を目指して

杉本森林総合監理士事務所

杉本 和也

はじめに

私は、奈良県吉野郡天川村で杉本森林総合監理士事務所を営んでいます。天川村からの地域林政アドバイザーの受託をメインに、洞川財産区森林アドバイザー、奈良県林業改良普及協会事務局長、緑の雇用集合研修の講師や奈良県フォレストアーアカデミーの講師など、皆様から色々なお仕事をいただきつつ事務所設立以来5年が経ちました。前職は奈良県庁で林学職として長年勤務させていただき、2019年無事定年退職を迎え、同時に天川村からお誘いをいただき、今の仕事を始めることになりました。森林総合監理士資格は2013年度の制度発足時に取得しましたが、在職中は資格を活かせる場面もなかったため、退職後は自分の発想で地域林業の活性化に取り組みたいと考え、自宅から通えない天川村ですが、村のお誘いを快諾させていただきました。今回はこの天川村での活動を中心に紹介させていただきます。

私の活動する天川村

天川村は紀伊半島のほぼ真ん中で、人口は約1200人、面積は17566ha、そのうち森林面積は17081haで林野率97%、標高441m〜1915m、吉野熊野国立公園が村土の約三分の一を占め、植林できる山地には、ほぼスギ・ヒノキが植栽され、人工林率は約61%となっています。村の西部は大峰連山を中心とした修験道の聖地で、世界遺産「大峯奥駈道」を擁し、山岳景観や清流が際立つ風光明媚な美しい村です。

天川村



【天川村の概要】
人口：約1,200人
面積：17,566ha
森林面積：17,081ha
林野率：97%

林業の衰退と加速する人口流出



大峯奥駈道

村の殆どが森林であり、戦後から高度経済成長期にかけて植林が活発に行われ、昭和の後半まで、保育作業を中心とした林業が村の主要産業となっていました。森林の成長と共に、保育作業が徐々に減少するとともに、近年の木材価格急落の影響を受け、森林所有者の経営意欲が減退し、間伐、枝打ち、伐採・造林などの経営活動や保育への投資も減少し、林業の循環はほぼ断ち切られた形になっています。昭和30年頃には、5600人余り居た村民も、先の見えない林業の低迷が続く中で、多くが村外に働く場を求め、人口の流出が加速し、減少の一端を辿っており、近年は林業従事者(林業退職金共済加入者)が10人を切る状態が続いています。

身の丈にあった林業

新しい時代の林業といえば、集約化を推進し、高性能林業機械で効率的な素材生産や、収穫から製材までを行う大きな産業構



森づくりに取り組む地域おこし協力隊

造の構築を思い浮かべますが、天川村では林業が衰弱し切っており、村内に市場、製材所、大規模事業体も無いことから、直ちに大きな林業に進めない地域の事情があります。事を急ぐと、村内の貴重な森林資源が村外事業者の仕事となり、村にはお金どころか、産業や人材も残らないで禿山だけが残ることも危惧されます。このため、「森林資源を村の産業にする」「森林の防災や景観形成その他多面的な機能はしっかりと保全する」の2点を基本に据え、地域おこし協力隊などの人材育成から身の丈にあった林業をコツコツ積み上げていきます。

小さな林業と期待される森づくり

天川村では少しでも森林資源を地域の仕事にしようと、7年前から未利用間伐材を薪として活用する事業を展開しています。村営温浴施設を皮切りに、徐々に薪ボイラーの導入も進み、間伐や丸太の搬出が、確実に現金収入に繋がる小さな林業の一つとして定着しつつあります。また、地場産業に和漢生薬「陀羅尼助丸」の生産があることで、伐採跡地には原料となるキハダを中心とした地域性豊かな広葉樹の森づくりも進めています。キハダは近代医療に不可欠な生薬殺菌成分ベルベリンを多く含み、スギ・ヒノキに比べて収穫までの期間も短いので、収益性の高い資源になると考え、増殖に取り組んでいます。広葉樹の森づくりには、種子採取から苗木の育成まで村内で



未利用間伐材から薪を生産

行うことを基本としており、苗木の生産技術を確立しようと進めています。また、森林資源を全て活用して産業を創出するという観点から、和精油などのアロマ事業の育成にも取り組んでいます。

これらに加え、都市や企業と連携して、「森づくりの活動」そのものを評価していただく取組も進めています。2020年から一般社団法人モア・トゥリーズさんと手を携えながら進めている森づくりの活動も定着し、地域の若者が林業に従事したいという流れも起きてきています。そうした若者の森林整備活動が地球温暖化防止に貢献していることを実感できるよう、面積は大きくありませんがJ-クレジットを創出する取組も進めています。



種子から育てた広葉樹苗



アロマの抽出



支援企業と進める森づくり

おわりに

私の取組は、素材生産を計画的に進め地域林業を牽引するようなフォロースター活動ではありません。読者の方々が期待された取組ではなかったのではないかと思います。ただ、日本の山村にはそれぞれの地域の事情や特色がありますので、全ての地域で必ずしも林業の効率化を進められる訳ではないのが現実です。最近では森林環境譲与税の活用など地域特性に沿った支援も行われてきていますが、補助事業など多くの支援策は画一的なものが多いと感じます。今後、より地域性を考慮した支援メニューが広がれば、森林総合監理士の活動の幅も広がり、地域の林業に元気が出るようになります。